

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070401627		
法人名	社会福祉法人 鷹羽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	福岡県北九州市小倉北区篠崎1丁目9番6号 (電話)093-592-3605		
自己評価作成日	令和5年9月20日	評価結果確定日	令和5年12月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

同じ敷地内に同一法人が運営する軽費老人ホーム、通所介護が併設しており、軽費老人ホームに関しては45年という歴史によりコロナ禍前は、地域に根指した活動ができており、地域活動や行事等一緒に活動する事も多く、その際入居している施設の垣根を越えて助け合いも自然に生まれ心地よい環境となっていた。  
現在は感染予防を行いながら コロナ前に行っていた活動を徐々に再開し利用者、職員ともに以前の表情豊かな雰囲気に戻りつつある。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和5年10月17日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は住宅地にあり、保育園や小中学校、医療機関、神社等が周辺にある。同法人の軽費老人ホームやデイサービスの職員との連携もとれている。職員は勤務年数が長い職員も多く、利用者との関係性も良好で、働きやすい環境が作られている。文化祭や夏祭り等の地域行事を通じて、地域交流を行っている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼、GH会議、全体会議時は必ず理念、方針を唱和している。また職場の教養本を毎日唱和、感想を順番に述べ理念等と照らし合わせながら実践に繋げている。	事業所独自の理念があり、職員は毎朝唱和して、理念に沿った支援ができるように心がけている。職員会議やケース会議で事例について話し合い、理念の実現を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、神社の清掃活動や地域の廃品回収に参加している。また地区の子ども神輿では、事業所を休憩場所として園内ホールを提供しており、子ども達との交流もできていたが、前年度迄コロナ感染予防対策の為実施できない状態であった。	自治会に加入し、清掃や廃品回収等の地域行事に参加している。保育所からの定期的な訪問や小中学校との交流を行っている。地域行事の子ども神輿では休憩場所を提供する等、地域との交流を深めている。地域住民から花の差し入れをいただくこともある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内の敬老会時に軽費、DS、GHの特色、入居条件を記したパンフレットを配布し施設見学や相談は随時可能であることを伝える必要な支援に繋げている。又地域の学校からの施設体験学習等受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、活動内容や入居者の現状報告、事故報告の内容等ホームでの対応方法を説明しもっと良い方法がないか相談をしたり客観的意見を頂きケアに繋げている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を対面形式で開催している。感染防止策や事故防止等について構成員から意見をいただき、改善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて包括支援センターの担当者との意見交換を行っている。(本年度より対面会議) また、毎年12月にグループホーム協議会主催での市との意見交換会があり、実情を伝える機会があるが、コロナ対策で開催が自粛されている。	介護保険の更新やおむつ給付申請などで訪問するほか、地域包括支援センターと空床状況や新規の相談等を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回身体拘束廃止委員会会議を行っており、同月のグループホーム会議にて内容を報告し実践出来ているか振り返りを行っている。	日中は玄関の施錠はしていない。法人に身体拘束防止委員会があり、3ヶ月に1回、職員が参加している。職員は利用者の外出傾向を把握し、見守りや散歩に付き添っている。職員研修を開催し、スピーチロックの防止について理解を深めている。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	虐待のニュースや事例をもとに発生した要因を考える機会をその都度作り身近に起こりやすく何が虐待に当たるのか認識してもらい予防に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入居者がいる為後見人の方に情報を教えて頂いたり年1回研修にて学んでいる。また家族には、入居時に必ず説明をしている。	成年後見制度や日常生活自立支援事業について、入所時に説明を行っている。現在、利用者1名に成年後見人がついている。権利擁護の研修を開催し、研修記録を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	要介護3になると特養の申し込みが出来る事や看取りを行っていない為どのような状態になったらホームでの暮らしが難しくなるのか説明し同意書を頂いている。状況に応じて家族に再度説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時（リモート含む）や電話、ライン等で近況報告を行い、話の中から汲み取れる要望や意見箱の意見はスタッフが情報共有し、実践できるよう努めている。	利用者は日頃から意見や思いを職員に伝えることができ、食事の希望や外出先についての意見を運営に反映させている。利用者から「ミシンを使いたい」と希望があり、実現できるよう支援している。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議やスタッフ会議の際に意見交換をしており管理者が代表者に提案し繋げるパターンが多い。	全体会議やスタッフ会議、グループホーム会議等において、職員は運営に関する意見を述べる機会がある。管理者は職員が意見を言いやすいよう工夫し、職員のアイデアを運営に取り入れている。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	雇用形態の改善は、代表者に掛け合っている。また、出来るだけ希望休や年休が取れる様調整しリフレッシュできる環境作りに取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員募集、採用については特に制限はなく行っている。定年後も体力、気力があれば雇用を継続している。体力や得意分野に応じて仕事内容を勧誘し無理なく仕事ができる様配慮している。	職員採用では性別や年齢による排除はしていない。離職防止や働きやすい環境作りに向けて、夜間勤務の負担軽減や4週8休制の導入等が取り入れられている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員への人権教育、啓発活動に関する取り組みについては年1回研修にて学んでいる。	全職員が人権研修に参加している。7月に成年後見制度について研修を実施し、研修記録を保管している。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年内部研修は、外部研修に行った職員が講師となりGH会議後に行っているが、コロナ感染予防対策の為内部研修で回覧となっている事が多い。その際ホーム内でのケアを振り返る事ができる。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県GH協議会に所属しており研修等年間計画に沿って参加し、他施設職員との交流もできていたが、現在は頻度は少ないが、リモートにて話し合いの場が出来る。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の想いが話しやすい環境を作り不安を取り除けるよう時間をかけて信頼を得る様努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用するにあたり生活歴、入居する経緯を聞き取り家族の想いをしっかり受け止めながら本人と家族の関係が良い方向に向かうよう努めている。また、毎月近況報告を郵送にて行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りによりサービス内容を細分化しスタッフミーティングにより共通サービス、個別サービスを考慮し個々にあったサービスを導き出すよう努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として料理やしきたり、人との上手な付き合い方等学ぶ点が多く、スタッフも教えてもらいながら一緒に取り組む事により関係を深め共存している事を感じて頂けるよう努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の想いを家族に伝えたり、また家族の想いを本人に伝えたりと家族との絆を大切にしている。面会（リモート含む）や電話での会話後、繋がっている事に対し必ずスタッフが感謝の言葉を伝えている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の馴染みの場所や人について家族から聞き取ったり、日頃から地名や場所等を会話の中にちりばめ入居者にどういった暮らしをしていたか自ら語られる場面を作るよう努めている。	利用者の馴染みの人や場所について、入所時や日々の暮らしの中で利用者や家族から聴き取っている。利用者の友人が訪問することもあり、職員は関係が継続できるよう心がけている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の希望や相性を考慮し利用者同士の和が築けるよう食事やレク等の席や声の掛け方に配慮し支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も相談等応じる事を家族に伝えている。契約終了後も家族から庭に咲いた花を頂いたり亡くなった際に連絡等頂く事もある。		



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意思の疎通が難しい利用者には、表情で読み取ったり、また家族に聞き取りを行い本人の想いに添えられる様努めている。思い出の品を見ながら語って頂くなど個々の対応を行い気持ちを引き出せる環境を作りを行っている。	入居時点で、利用者や家族からの聞き取りや情報提供書等をもとにアセスメントを行い、生活歴や嗜好等の把握に努めている。日々の暮らしの中で、利用者の希望や意向を確認し、個別支援につなげている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独り暮らしを長年されて共同生活が苦手な方など個々の思いや洞察力を鍛えながら支援の方向性を見極める材料としている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	加齢に伴う体力低下など休憩を挟んで無理のない個々のスタイルを尊重しつつメリハリのある活動を織り交ぜている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には利用者の状況を説明し意向を尋ねてケアプランに反映させている。GH会議では処遇について話し合い気付きを情報共有し現状に合った計画を作成し実践している。	入居後1ヶ月を目途に暫定ケアプランを作成し、以後は3～6ヶ月ごとに見直しを行っている。実施状況はモニタリング表を用いて確認している。計画作成にあたっては、利用者や家族の希望と同意を得ている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子などケース記録に記録し朝礼や終礼時も報告し合い、更に話し合いが必要な内容はGH会議で課題として挙げている。また、毎日モニタリング実施表にチェックし確認を行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人内の朝礼時に倫理本の一読を順番に行い、支援の内容が柔軟に対応できる様他業種等での対処法をヒントに凝り固まった考え方を払拭できるチャンスがあり多様な支援に繋がっている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々参拝に行く近所の神社で清掃活動を行い「いつもお願いばかりしているからお礼をしなくては」と感謝の気持ちと清掃後の達成感を感じる事ができ地域活動を通して支え合う支援ができる様努めているが、前年度までコロナ対策で実施できていない。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族、本人の希望によりかかりつけ医、緊急搬送先を決めている。状態変化時や事故の際は家族、かかりつけ医に報告し指示をもらっているが、必要時には、家族に往診時の同席や病院にて話し合いの場を設けて納得のできる治療等に繋がっている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。内科と歯科の訪問診療がある。他科受診については、事業所が受診支援を行い、受診内容等は都度、家族へ報告している。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回看護師が勤務しており、介護業務も行う為相互理解が得られ適切な受診に繋がっている。また隣接しているDS、軽費老人ホームにも看護師が勤務している為支援体制は整っている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は病状把握に努める為、訪問し認知症が急速に進行しない様、退院のタイミングを病院と協議しながら支援している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所内で重度化、終末期の方針、対応について入居前、入居時に家族に説明し（看取りを行っていない事）同意書を頂いている。また入居後状態の変化等に対し、再度説明し家族や本人の意向を確認したうえで次施設についての説明を行い支援する事を伝えている。	重度化や終末期の対応については、事業所独自で作成した「重度化等による次施設等への支援についての確認書」により明文化している。早い段階から利用者や家族、主治医、関係者との協議を行っている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対処法、AEDの使用訓練を行い、救急車を要請後の動き等も確認し合っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回消防訓練を行い避難訓練を行っている。また定期的に消防設備の立会いがあり避難訓練の動作確認、災害時の心得等利用者と共に学んでいる。町内の災害協力協定書を交わしている。	消防署の協力を得ながら、定期的に夜間想定を含めた避難訓練を実施している。避難場所の確保や災害協力協定書を地域と取り交わし、発災時の協力関係を構築している。非常食や備品等はリスト化し、準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	妄想や作話等否定はせず、利用者の気持ちに寄り添うよう努めている。生活歴等職員が把握し得意分野の活動を中心に言葉かけを行い役割を持ってもらえる様支援している。	声かけ、入浴、排泄等の個別支援には特段の配慮を行っている。日々の暮らしの中で、利用者の人格の尊重やプライバシー保護に配慮しながら支援を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話の中で本人の希望や要望を尋ねたり家族に入居する前の本人の好みを聞いたり、必要時は選択肢をいくつか出したうえで選んでもらう様支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴やレクリエーション等拒まれる時は、想いを傾聴したり時間をおいての言葉かけ、スタッフが交代して雰囲気を変えたりと利用者にあった支援方法を試みる事もあるが基本的には無理強ひせず本人の意向に添っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回訪問美容院があり本人や家族に希望する髪型を美容師に伝えたり、入浴の着替えや外出や行事の際洋服と一緒に選んでいる。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	果物を剥く、盛り付け、食器洗い等時々一緒に行っている。また月1回給食会議にて嗜好等の報告し不定期に1回選択食が設定されている。BBQや行事食、おやつ作りは、喜ばれている。外食は、コロナ感染予防対策により現在実施できていない。	主食は併設施設で、副菜は事業所で調理して提供している。利用者の希望メニューを献立に反映している。時にはパン食や外注弁当、移動パン屋の来訪等を利用して、食事を楽しめる支援が行われている。	



項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が立てた献立であり食事の形態は、利用者個々で必要に応じて刻みやミキサー食とりみ等対応している。糖尿食等に関しては量の調整を行っている。食事、水分摂取量はチェック表に記入しこまめにチェックしている。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に言葉かけ、誘導、介助と個々に合わせた口腔ケアを行っている。毎年歯科検診を受けており治療の必要な方を早期発見できている。治療が必要な時は、訪問歯科を利用している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている為、常時オムツの方はいない。	トイレは3ヶ所設置されている。排泄チェック表はタブレットを活用し、利用者一人ひとりの排泄状況を検討し、排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の運動や飲水量を意識し、出来るだけ日中に排便できる様、便秘薬の量、服薬時間を調整している。排便チェックにて便秘の方を確認している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	重度化によりそれぞれの体面も考慮しつつ週2回の入浴を行っている。希望が言いやすい環境を作り希望がある時は、回数に関係なく入浴して頂いている。また拒まれる利用者には、対応するスタッフが交代し言葉かけをしたり次の日に変更したりと利用者に合わせた支援を行っている。	体調等を見ながら、週に2~3回を基本とし、希望に応じて入浴を支援している。必要に応じて清拭や足浴等も併用し、柔軟な支援に努めている。入浴後の皮膚ケアや脱衣場の暖房等にも配慮している。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	コロナの感染状況により、散歩に出掛けたり、体操等身体を動かす機会を作りつつ、体調や加齢に伴う身体的低下を把握し、昼食後状態に応じて利用者の希望も含め休息時間を設けている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容に変更があると家族に変更理由を説明している。また痛み止めや眠剤の量が体重の変化や効きすぎ等変化がある時は、かかりつけ医に報告し指示を仰いでいる。減薬にも取り組んでおり手順を踏んで実施している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野を最大限に活かせるよう裁縫や調理、歌を唄う等自然な生活の流れで発揮している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候が良い時は園周辺を散策し雨天時は隣接施設内を回り、誕生月には本人が希望する外出等支援を行っていたが、現在は散歩のみ実施しその他は、今後再開する。	天候や体調を考慮しながら、事業所周辺の散歩を日課としている。できるだけ戸外に出かけるよう努めている。外出状況は、毎月作成している「はなみずきだより」に掲載している。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望により安心を得るため少額自己管理されており（紛失を含め家族の同意）移動パン屋等自らパンを選び購入している。家族には、収支報告書を毎月提示し同意書を頂いている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話はコードレスである為自室で親族と話している。毎年賞状はできるだけ本人の直筆で家族に出している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間では季節の花やタペストリーを飾り天窓からの自然光を取り入れ自然な形で生活音や食事作りの匂いに包まれている。また、コロナ感染予防対策の為常時換気を行い、空気清浄器を設置し健康に配慮している。	共用のエリアは、天窓からの陽光が差し込み、穏やかで家庭的な雰囲気がある。文化祭での作品を飾る等、馴染みの物を取り入れた空間となっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	少人数用のテーブルやソファなど自由に行き来する事ができる様配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	タンスや食器等愛用していた品々を持ち込んで頂き、家族の写真や作品を飾ったり又は家族がレイアウトする事もあり自分の部屋として落ち着いた生活ができる様支援している。	居室には、家族と相談しながら、馴染みの家具や調度品、写真等が持ち込まれている。利用者にとって安心できる空間となるよう配慮している。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールや居室等手すりが設置されており椅子やタンスも手すりの代替として、動線に配置し安全かつ過介護にならない様、試行錯誤しながら自立に向けた環境を整えている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
			○	③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)		①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)		①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
			○	③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
			○	③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
			○	③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
			○	③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		